

ユウシオガイ *Moerella rutila* (Dunker)

【選定理由】

本種は内湾の最も奥部の砂泥干潟に生息する。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。本種は現在でも汐川干潟 (藤岡・木村, 2000)、豊川河口域 (松岡ほか, 1999)、蒲郡市などの三河湾奥部に健全な個体群が残っている。しかし、本種の生息域は内湾域の奥部にあるため、人為的な改変の影響を受けやすく、将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長約 15 mm。殻は卵形で膨らみは弱く扁平。殻はやや薄く、後端は裁断状となる。殻の色彩は白色、黄色、橙色の 3 型がある。



蒲郡市三谷地先人工干潟, 2005 年 7 月 21 日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、台湾、国内では陸奥湾～九州まで分布する (木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は悪化しているため、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館 (2001) では相模湾の個体群が消滅にランクされている。

【引用文献】

藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の 1998 年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

木村昭一, 2012. ユウシオガイ, p. 126. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

松岡敬二・木村妙子・木村昭一・三谷水産高等学校増殖部・山口啓子・高安克己, 1999. 豊川下流域の貝類相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 9: 15-24.

(木村昭一)